

2024年度 実施概要

事業9年目を迎え自治体、環境団体、一般企業協力のもと事業を推進。オリジナルイベントの認知が小学生および保護者に浸透し、150人以上の応募を集める注目度の高い企画に成長。また、これまでにつながりが薄かった高校生との連携企画「長野県高校生海の政策コンテスト」を教育委員会の協力のもと11月から募集をスタートさせ、来年の本大会へとつなげる。県内における海に特化した唯一の団体として、教育、環境、親しみを提供する取り組みをさらに推進していく。

オリジナル体験学習イベント 信州ウナギ調査隊

長野県の諏訪エリアは江戸時代からウナギ漁が盛んで、鰻食文化も根付いている。しかし、生息環境が大きく変わり、県内で獲れることはなくなった。天竜川でつながる遠州灘の浜名湖においてもウナギの稚魚の漁獲量が大きく減少。そこで、信州と静岡浜名湖、そしてその先の海のつながりを長野県の小学生が学び、体験する学習プログラムを7月30日～8月1日に開催。子どもたち23人が長野県と海の繋がりの大切さを認識し、自分たちにできることは何かを学んだ。募集はテレビCM本数を昨年比+20本計120本放送し、人数ともに増加し152名が応募。SNSを活用しイベント当日のライブ更新を行い、海プロが目指す対象層へのリーチも実現。イベントの学びの成果として地元大手ラーメンチェーン店「テンホウ」と魚加工会社「スギヨ」と連携し、ウナギの蒲焼風かまぼこでオリジナルラーメンを開発。10月15日から期間限定で県内55店舗で販売中。また、多くの児童が夏休みの自由研究のテーマに設定。うち一人は地元新聞社主催の長野県こども新聞コンクールで優秀賞を獲得し、受賞活動の訴求を多くの同学年の児童の他、読者に伝えることができた。



WEB運営

24年11月時点でニュースサイトPV数 66,651PV、ニュース記事数 36記事達成。その他、自主的なSNS運営としてXを運営し、情報発信に努めた。

海の民話

長野県飯田市と連携し、民話「うしろむき弁天ものがたり」を制作中。小学校での教材などに活用されるほか、コラボ商品の開発を予定。



海プロ米

海・川・森の自然環境のつながりを1年間の米作りを通して学ぶ。苗を植えて収穫・流通するまでをたいけんし、収穫した米を「海プロ米」としてオリジナルパッケージとして11月に販売予定。



これまでの課題と今後の展望

課題 1

海洋教育の不足。
海なし県のため、海を親しむ場が少ない

課題 2

長野県高校教育方針で「探求」に力を入れているが海の課題に特化した政策コンテストがない

課題 3

海に関連した活動団体が当団体以外に少ない



小学生に海洋環境を学ぶ体験イベントを実施。自分ごととして海に起きている問題を考える



高校生の目線で政策アイデアにして、海の課題に主体的に参画機会を創出



企業や団体との連携を深め、海と日本プロジェクトの自立運営を目指す